

いのち
守る政治

国保料の引き下げ、窓口払いの減免を



ひろせ公代



▲議会でのひろせ議員
◀国保料金の引き下げを求める1万2千の署名を受け取り、実現に全力(2013年5月)

「ひろせ議員、今度も国保を質問されるのですか」——市役所の幹部から議会前になると声がかかります。それというのも、ひろせ議員が、毎議会、国保料金の引き下げなど求める質問をしているからです。質問回数は、5年間で14回にもものぼり、庁内では、「国保議員」と呼ばれるほどです。

ひろせ議員のこだわり

ひろせ議員が、国保問題にこだわるのは、生活が大変なのに高い国保料や窓口負担が重く、医療にかかれない事態を多く見聞きし、「いのちを守る国保にしたい」との強い思いがあるからです。

5年前の市議会補欠選挙の時には「国保料の引き下げ」を公約。当選し、初質問。

ひろせ議員は迫ります。

「高い国保料が暮らしに重くのしかかっています。民医連の調査では、2007年一年間で病院にかかれず手遅れで死亡した人が30人います」「羽曳野市の国保会計は単年度で黒字。基金積立もあり、値下げすべき」。

医療費の窓口払い減免制度を改善

以後、剰余金が20億円あることなどを指摘、国保料の引き下げを求めるとともに、窓口払いの減免、削られた国庫補助金の復元などを求め続けました。そして、2008年までほとんど適用ゼロだった医療費窓口払いの減免制度を使いやすくさせ、適用者を増やしてきました。

安全の
街づくり

郡戸大堀線の整備、恵我之荘の踏切改善を

ひろせ議員が議会で初質問のトップでとりあげたのが、恵我之荘第一踏切の拡幅です。

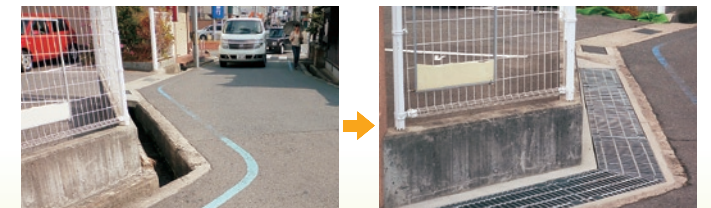
ひろせ議員は、混雑ぶりと危険性、鉄道事故の43.7%が踏切事故であることを指摘し、拡幅を要求。市は「非常に危険な状態」「府に郡戸大堀線と踏切の拡幅を要望する。近鉄にも踏切拡幅を要望する」と答弁しました。



住民と力あわせて

ひろせ議員は、地域住民の方々と、大阪府富田林土木事務所や近鉄本社に、改善を求めています。(左写真)

側溝にふたをかけて通行しやすく(郡戸大堀線)



狭くて危険な恵我之荘駅前通りの隣地の方のご協力のもと通行しやすくフタかけが実現。さらに他にもフタ設置をすすめます。

来年度から拡幅などに着手

初質問以後も、ひろせ議員は郡戸大堀線の拡幅と併せて踏切拡幅を議会で迫り続け、今年の3月議会では「近鉄恵我之荘から東大阪美陵線までの区間を平成26年度着手に向けて、府と協議している。協議内容は、道路拡幅の検討」などの答弁を得ました。

近鉄と交渉—要望項目と回答

- 恵我之荘第一踏切の拡幅を。
- ラッシュ時の駅員の増員を。
- 北側自動改札の時間延長を。

- ▶ 「トイレをきれいに」と要望。「今年度多機能トイレに改善」となりました。
- ▶ 第一踏切にラバーをつけ、段差の解消をと要求。近鉄は「今年秋に改修」と回答。

本格工事の前にも改善を

ひろせ議員は、郡戸大堀線の本格的な工事を迫りながら、それまでも危険箇所をなくすため点検し、一つ一つ改善させています。

劣化して危ない道路の改修(カバ公園から下観音橋)



南恵我之荘3、4丁目のところの危ない道路280メートルの改修ができました。